

安芸市川北地区

地域農業の未来を考える集落座談会（１回目まとめ）

１．実施日時：令和６年９月２６日（木）１４：００～１５：４５

２．実施場所：安芸市立川北公民館２階ホール（安芸市川北甲2588番地1）

３．参加者：地域の担い手等（10名）
JA高知県安芸営農経済センター等（3名）
高知県安芸農業振興センター（1名）
安芸市農業委員会（1名）
安芸市農林課（1名）

計16名

４．テーマ：「川北地区が目指す農業の将来像」

５．会議録（参加者からの意見）

①地域農業の現状及び課題

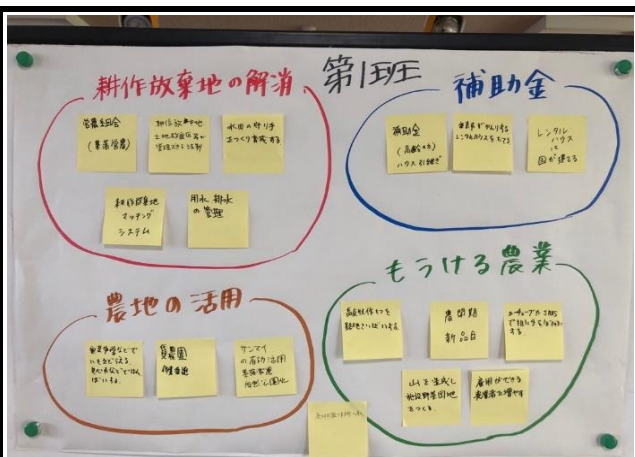
- ・稲作経営は厳しい状況が続いているため、何らかの支援が必要。
- ・多様な担い手が農地を管理しないと耕作放棄地は増え続ける。
- ・農閑期の収入確保が課題。新たな振興作物の導入について今から検討しては。
- ・サンマイ地区が耕作放棄地化している。
- ・基盤整備による区画整理や農道・水路整備等が求められている。
- ・家族経営による小規模の経営体が多い。
- ・経営規模の拡大を目指しても、従業員の確保が難しい。
- ・空きハウスや農地情報の整理が不十分。
- ・担い手の育成と合わせて、労働力（従業員）の確保に向けた支援が必要。
- ・小間切れの農地が多くて使いづらい。使いづらい農地から空いていく。
- ・安定した農業経営ができ、働きやすい環境をつくる必要がある。

②課題解決に向けた取組

- ・土地改良区等が耕作放棄地を管理できるような体制をつくる。
- ・水田を大規模に管理する守り手を育成する。
- ・小中学校の授業の一環として作物を栽培、販売する体験をさせる。
- ・露地栽培による高収益作物を導入して農家の収入を増やす。
- ・津波対策として山を切り拓き、施設野菜団地を造成する。
- ・耕作放棄地のサンマイ地区を活用して自然公園を整備する。
- ・大学等と連携し、栽培データの分析やモデル化などに取り組む。
- ・空きハウスや農地の情報を整理して一元化する。
- ・担い手の育成とともに、労働力（従業員）の確保に向けた支援体制を構築する。
- ・全圃場にネットワーク環境を整備する。
- ・安定した農業経営と働きやすい環境をつくる。
- ・スマート農業を活用して効率的に収量を上げる。

【座談会の様子】

《第1班》



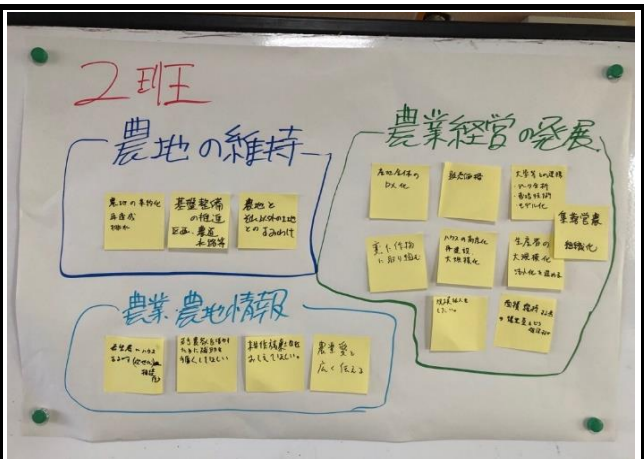
テーマ 川北地区が目指す農業の将来像	
第1班 西岡、川北保、樋口、武井、市川	
No. こんな地域農業を実現したい！	実現するための方法
1 『もうける農業』の実現	- 施設野菜団地をつくり、法人化 - 高収益作物の導入 - SNSで発信し、新たな担い手確保
2 農地の活用	- 中学生に野菜を育ててもらって販売する - 貸農園 (作業委託で収穫) - 自然公園化、キャンプ場
3 耕作放棄地の解消	- 水田の守り手を育成する - 土地改良区の維持と発展 - 集落農業にかわる法人



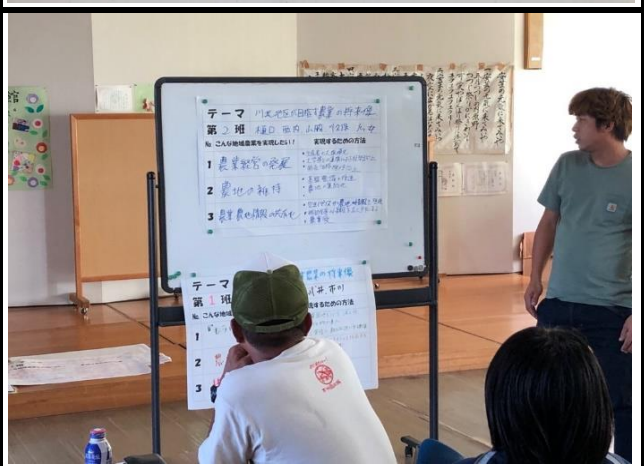
■班内で出された意見■

- ・耕作放棄地を土地改良区等が管理できる体制をつくる。
- ・水田の守り手をつくり育成する。
- ・貸し農園や作業委託により農地を維持していく。
- ・小中学校の授業の一環として作物を栽培、販売する体験をさせる。
- ・レンタルハウスは国が建てる。
- ・市管理の園芸用ハウスを増やす。
- ・露地栽培による高収益作物を導入して農家の収入を増やす。
- ・津波対策として山を切り拓き、施設野菜団地を造成する。
- ・YouTubeなどSNSを活用して担い手を募集する。
- ・雇用ができる規模の大きな農業経営体を増やす。
- ・農閑期に栽培する新品目の導入を検討する。
- ・耕作放棄地を解消するための農地マッチングシステムを構築する。
- ・耕作放棄地になっているサンマイ地区の有効活用を図る。
- ・高齢の担い手へ補助金を出して新たな担い手へハウスを引き継いでいく。

《第2班》



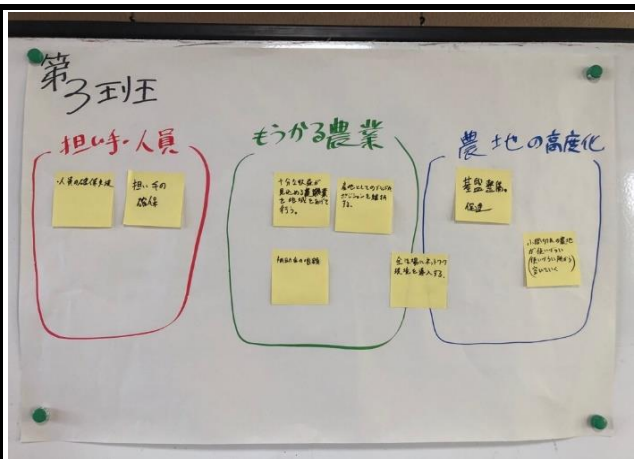
テーマ	
川北地区が目指す農業の将来像	
第2班	
樋口、西内、山崎、川久保、元女	
No.	こんな地域農業を実現したい！
1	農業経営の発展
2	農地の維持
3	農業・農地情報の共有化
実現するための方法	
	- 生産者の大規模化 - 大学等との連携による技術向上 - 販売価格の向上 - 基盤整備の推進 - 農地の集約化 - 空きハウスや農地の情報と整理 - 補助制度の情報を広くPRする - 農業愛



■班内で出された意見■

- ・基盤整備を推進する必要がある。（区画整理、農道・水路整備等）
- ・若い担い手を増やすための支援制度を手厚くする。
- ・大学等と連携し、栽培データの分析やモデル化などに取り組む。
- ・生産者の規模拡大を推奨して法人化を進めるべき。
- ・経営規模を拡大するためには、従業員の確保が課題。
- ・集落営農組織の設立を促進する。
- ・販売価格の維持、向上が不可欠。
- ・新たな振興作物（珍しい品目）の導入に取り組む。
- ・空きハウスや農地の情報を整理して一元化する。
- ・補助制度等の情報を広くPRする必要がある。
- ・農業愛を育み、広く伝える。
- ・農地とそれ以外の土地とのすみ分けを図る。

《第3班》



テーマ 川北地区が目指す農業の将来像	
第3班 岡宗、陰山、樋口、松本(県)、小松(JA)	
No. こんな地域農業を実現したい!	実現するための方法
1 もうかる農業を実現する	スマート農業を活用し、効率的に収量を上げる 新品目にチャレンジしやすい地域にする 行政支援の手厚い地域にする
2 農地を高度化する	基盤整備を促進する
3 担い手と人員の確保	安定した農業経営ができる地域 働きやすい環境を作る 地元学生の体験が受け入れられる



■班内で出された意見■

- ・担い手の育成と合わせて、労働力（従業員）の確保に向けた支援が必要。
- ・地域全体で十分な収益が見込める農業に取り組む。
- ・産地としてのポジション、ブランド力を維持していくことが重要。
- ・小間切れの農地が多くて使いづらい。使いづらい農地から空いていく。
- ・全圃場にネットワーク環境を整備する。
- ・新品目にチャレンジしやすい地域にする。
- ・行政支援が手厚い地域にする。
- ・安定した農業経営ができ、働きやすい環境をつくる必要がある。
- ・スマート農業を活用して効率的に収量を上げる。